

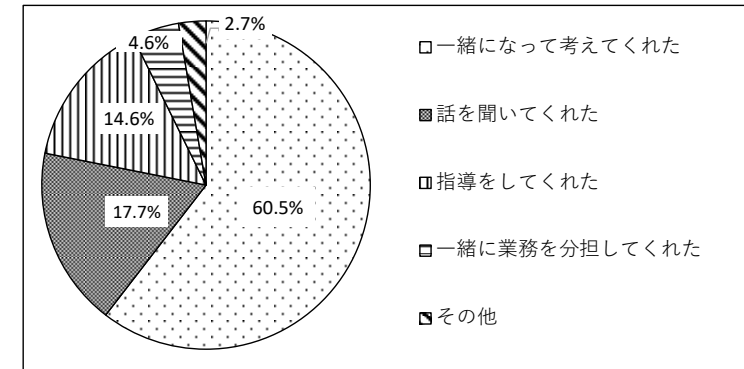
I 目的

初任者研修における校内研修の実態を明らかにし、組織的・持続的・効果的な校内研修の在り方を提案すること、及び、初任者研修における校内研修の好事例を収集し、県内の全校種に周知すること。

II 結果

- ・校内研修が初任者に影響を与える要因は、頻度や研修時間の長さといった量的要素ではなく、研修内容や環境といった質的要素であることが分かった。
- ・ディスカッション形式の研修を取り入れ、初任者の思いを交流させる環境の整備が重要であることが分かった。
- ・初任者が困難な状況に直面しているとき、その状況や思いについて話ができる相手や、その機会を求めていることが分かった。
- ・県内5つの学校の協力により、下記Ⅲのまとめ(提言)が初任者の育成に有効であることが分かった。
➡「初任者研修における校内研修の好事例について」(県教育センターHP)
- ・校長を対象にした「若手人材育成に関わるアンケート」を実施した。およそ9割の学校で、メンター役が効果的に機能する校内研修体制が整備されていることが分かった。

図 初任者は困難を抱えた時、どんな支援を求めているか



III まとめ(提言)

- 「初任者研修の手引」に示されている校内チーム研修について、採用2・3年目の教員をメンター役にするなど、各校の実態にあわせて効果的な運用方法を検討すること。
- 初任者が年間5回実施する提案授業について、各校種の特性にあわせて、事前・事後の指導に多くの同僚教員が関わる体制づくりを進めること。
- 初任者の提案授業実施について、校内指導教員は「授業参観記録」を作成するなど、初任者が自分の授業を振り返りやすい工夫をすること。
- 効果的な校内研修組織の構築など、校内における人材育成の取組については校長のリーダーシップが不可欠であること。

